



シリーズ214

高めよう!
人権意識

心のかけ橋

関 人権・生涯学習課
(☎928-1006)

防災と多文化共生

多文化共生とは、国籍や地域に関わらずお互いの文化や習慣などを認め合い、対等な立場で地域社会の仲間として一緒に生活することです。

在任外国人や外国人観光客は年々増えていきます。日常生活で外国人と接する機会が増えている今日、地震や台風などの災害に備えて、私たちは何を心がければいいのでしょうか。

まずは日頃からの準備が大切

昨年、熊本県と鳥取県では大規模な地震が相次ぎ、本市でも6月に記録的大雨により浸水や崩土などの被害が出ました。岩手県では台風10号に伴う河川氾濫から高齢者施設の入所者が逃げ遅れ、多数の犠牲者が出るなど甚大な被害が出ました。台風10号の被害を教訓に避難開始段階を明らかにするため、昨年12月に避難

準備情報などの名称が変わりました。今一度確認をしておきましょう。

第1段階 避難準備・高齢者等避難開始 避難に時間がかかる人（高齢者・障がい者・子どもなど）は早く逃げてください

第2段階 避難勧告 速やかに避難場所などの安全なところへ逃げてください

第3段階 避難指示（緊急） 直ちに安全なところへ逃げることを完了してください

災害時には普段聞き慣れない緊急時の情報に慌てるかもしれません。平常時に避難場所などを確認しておき、スムーズな避難行動を心がけましょう。



防災訓練（バケツリレー）

通勤中や旅先など自宅以外で災害に遭う可能性もあります。日頃から防災訓練への参加や災害に備えて個人個人のシミュレーションをしておくことも大切です。

自然災害は避けて通ることはできませんが、日頃からの災害への準備が大切な命を守るにつながります。

やさしい日本語をしよう

情報が届きにくい人（日本語が理解しにくい外国人・高齢者・障がい者・子どもなど）に情報を伝えて速やかに避難してもらうためには、日頃から「やさしい日本語」を使ってコミュニケーションを図っておくことが大切です。

やさしい日本語は、もともと災害情報を「迅速に」「正確に」「簡潔に」外国人に伝えるために考えられたものです。例えば「避難所」より「安全なところ」の方が伝わりやすくなります。

そして何より相手を思いやる気持ちと自分の意図を伝えようとする姿勢が大切です。



みんなの命を守るため、ローズマインド（思いやり・優しさ・助け合いの心）を育み、誰もが生き生きと暮らせるまちづくりを進めましょう。

関 市民相談課（☎928・1002）

人権は 差別をなくす 合言葉